

平成28年度  
ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI  
(研究成果の社会還元・普及事業)  
実施報告書

HT28109 プログラム名 看護師を体験してみよう！

～手術を受けた患者さんへの看護や災害時の看護



開催日：平成28年7月23日

実施機関：東京家政大学

(実施場所) (狭山校舎)

実施代表者：立石 和子

(所属・職名) (看護学部・教授)

受講生：31名

関連URL:

【実施内容】

■当日スケジュール

1. 受付(9:30～10:00) 狭山校舎4号館1階ラウンジ

本年度は、看護学部の演習室がある校舎で受付を実施した。

2. 開講式(10:00～10:15)

実施代表者の挨拶、オリエンテーション後、科研費の説明、分担者の紹介、実施協力の学生の事項紹介を行った。



3. 講義①「看護師の仕事について」(10:15-10:30)

看護師になるための教育課程の説明を行った。また、看護師になってからの仕事や働く場所、さらに看護のエキスパートになる道として、認定看護師・専門看護師の制度を紹介するとともに、教育課程の説明を行った。

4. 講義② 災害時のトイレのについて考え学んでみよう

(10:40-11:00)

東日本震災時の活動をもとに、トイレに関する注意点の説明と、熊本地震での活動報告がされた。そして、震災が起こった時に注意できること、気を付けなければならないことなど、自分の身を守る方法を伝えた。



## 5. 演習① 災害時に使用するトイレを実際に体験(11:00~11:30)

災害用のトイレの使用法の説明を行った。非常用のトイレの使い方、非常時にトイレがない時にビニール袋を活用したトイレの作成方法などであった。その後、グループ(1グループ4名程度)に分かれ、実際のトイレで、非常用トイレを設置し、排尿の代わりにペットボトルに入れた色水500mlを流すことでどのようなか体験した。1グループに1名にファシリテーターとして学生を配置した。



ビニール袋を使用した方法



実際のトイレで非常時のトイレ体験

## 6. トイレについて話し合ってみよう!(11:30~11:50)

グループワークしやすいように、教室を移動した。実際体験したことについて、グループごとに話あった。話し合った内容を、参加者あるいは学生が発表した。

さらに今回、参加者が体験のために使用した非常用トイレを集め、それらがごみになることを、視覚的に確認し、災害時には、トイレの問題も大切であるが、その後にはごみ問題もあることを理解することができた。



## 7. 昼食(11:50~13:00)

昼食は、学食に依頼しお弁当とした。

## 8. 演習② 手術を受けると患者さんはどうなる(13:00~13:15)

午前と同じ基礎看護実習室の階段教室で、午後からの説明を行った。

手術を受けた患者さんに対する看護や、人工肛門を造設している患者さんのセルフケアについて説明した。

## 9. 開腹手術後の患者さんの看護:

グループA(高校生)(13:20~13:55)、グループB(中学生)(13:55~14:30)

演習のため小人数とするため参加者を2グループに分けた。

当大学の成人看護学教員が発案し、作成した術後スーツを着用し、手術を受けた患者さんが、初めて歩行する場面での援助をおこなった。看護師役の参加者は、エプロンを着用し援助をおこなった。高校生には、胃管を鼻の入り口にテープでとめ、よりリアル感を出した。



#### 10. 人工肛門造設の患者さんの看護:

グループ A(高校生)(13:55~14:30)、グループ B(中学生)(13:20~13:55)

当大学の成人看護学領域の教員が作成した、人工肛門モデルを使用し、排便時の処置とパウチ交換を体験した。排便は、紙粘土での手作りであった。

人工肛門を知らないために戸惑いはあったようで、人工肛門の必要性と対象者について説明した。



#### 11. クッキータイム、フリートーク(お菓子・お茶)&グループワーク(14:40~15:10)

看護師の仕事を経験して、看護師になるためにはどのような経験が必要か話し合ってみよう。

午後の、2つの経験から学んだことを、グループ毎に話し合った。各グループからの発表も活発となった。



#### 12. 修了式(15:10~15:30)

アンケート記入、未来博士号授与



#### ■プログラムを留意、工夫した点

少人数のグループを作成し、終日そのグループで実施し、協力学生も、終日同一とした。グループ分けをする時には、高校生と中学生に分けた。

災害時のトイレ体験に関しては、見学の保護者含め意見交換を行うことでお互いの考えを知る機会とした。

プログラムは、講義を実施した後に演習を組み込み込んだ。

午後の内容も、高校生と中学生で実施する内容を変えた。発表会のときは、協力の学生に書記を依頼した。

### ■事務局との協力体制

- ① 事務担当者が振興会への連絡調整と、提出書類の確認を行った。
- ② 事務担当者が、関連部門へ連絡し大学のホームページにより本授業についてPRを行った
- ③ 事務担当者が委託費の管理および物品の発注、支出報告書を行いました。
- ④ 事務担当者より依頼していただき、事務員によりポスターを作成していただいた。

### ■広報活動

- ① 附属中高校の事務部長に依頼後、高等部の担当教員と連絡をとった。附属中・高校生に対しては、高等部教諭に対応いただいた。
- ② 大学のホームページへの掲載をおこなった。
- ③ 実習施設へパンフレットを配布した。

### ■安全配慮

参加者全員分の障害保険に加入しました。また、協力の学生に関して、事前にオリエンテーションを実施した。また、参加者が移動する際には、協力者の学生に付き添いを依頼した。

### ■今後の発展性、課題

2回目の実施となり、昨年度からの協力学生がリーダーシップをとり、協力学生をまとめるとともに、在校生の縦のつながりが得られ協力学生の成長につながった。災害時の準備教育としては、今回導入程度であったとともに、災害に備える教育は、常に実施することが必要であるため、毎年繰り返すことも大切ではないかと思った。

今回は、附属中・高校に参加日程を確認し開催したことで、附属中・高校よりたくさんの参加者があった。しかし、附属以外の参加者枠が少なくなったため、参加人数の調整が必要である。

教員が作成した演習は、参加者より好評得たが、あわただしく実施することとなったため、内容の検討とともに時間配分が必要である。

### 【実施分担者】

谷岸 悦子 看護学部 准教授  
齋藤 麻子 看護学部 講師  
齋藤 正子 看護学部 講師  
太田 美帆 看護学部 講師  
西久保 秀子 看護学部 講師  
藤田 藍津子 看護学部 講師  
有澤 舞 看護学部 助教  
村上 希 看護学部 助手

【実施協力者】     9    名

### 【事務担当者】

野々村 宜政 狭山学務部学務課長